

平成29年度 学校評価書

I 経営の重点に関わること

学校名： 静岡市立高等学校

1 学校教育目標：「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。		自己評価	学校関係者評価委員会から		
2 重点目標  生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。	(1)授業、部活動、家庭学習時間の確保	①各学年と連携しながら家庭学習時間の実態を調査し、家庭学習習慣の確保と定着を図るため、部活動の終了時間、速やかな下校、適切な課題提示等について、教員全体による共通理解を図る。【教務課】	B	B 実態調査等のデータや部活動終了時間の厳守、各教科の課題の出し方の工夫等により、自分に合った学習方法の工夫や家庭学習を自ら行えるようにしたい。	
		【学校説明】6月・11月に帰宅時間調査を行い、その結果を踏まえ、家庭学習時間確保のため、平日は19時までには部活動を終了し、速やかに生徒を下校させるということについて職員の間で共通認識を持つことができた。	A		②部活動を通して人間形成を図り、また各部活動が魅力ある部になるよう計画・実行する。【生徒課】
		【学校説明】各部活動が切磋琢磨しながら取り組めた。各部活動の活躍を掲示したり部長会で各部活動の情報交換をした。副顧問にも部員指導のかかわりをさらに深く持つてもらう。部活動が人を育てることに大きく影響している。			
	(2)地域や保護者に開かれた学校づくりの推進	①PTA常任評議員との連携を密にして、ナイトウォークにおける保護者の協力を多数得る。特に、今年度は予備日を設けたので、予備日開催の可否を含めて検討・準備をする。【総務課】	A	A 例年以上に保護者と教職員の連携が取れているように感じる。良好な関係もPRし、学校行事等を通して、精神力を養う行事にもしていきたい。	
		【学校説明】今年度3年ぶりにナイトウォークを開催することが出来た。生徒の満足感や安心感を高めるため、保護者と教職員が連携を密にして運営することができた。ナイトウォークは、チームとしての学校づくりにおける一翼を担っている。	A		②学校行事、修学旅行、SSH活動などの報告をWebを用いて速やかにを行い、広く学校の活動を公開する。【情報課】
		【学校説明】学校行事などだけではなく、部活動の様子や大会結果などを、写真を加えて積極的にWeb公開する仕組みを作った。その結果、本校Webページを閲覧する人数が増え、学校の活動を広く公開することができた。閲覧された回数は今年度急激に増え、昨年の6割増、5年前の4倍以上となり月平均42,000回以上の閲覧数となっている。			
(3)教職員のワークライフバランス(仕事と生活の調和)に配慮した校内体制の整備を推進する。	①心身ともに健康な生活を送ることができるよう、勤務時間の超過を削減し、勤務の振替等を確実に実施する。【管理職】	B	B 教職員が多忙感解消へのさらなる取組を求めている。教職員の意欲に配慮しつつ、場合によってはPTAに業務を依頼することも考えられる。		
	【学校説明】土曜授業や修学旅行等、行事の振替取得は進んでいる。しかし、土日の活動や多くが夜開催である保護者会については、ワークライフバランスの点から、職員が勤務時間の超過に対する意識を高める必要がある。	B		②土曜授業の円滑な実施に努めるとともに、アンケートなどから効果の検証を行った上で、継続の検討を行う。【教務課】	
	【学校説明】土曜日授業における公欠者数、職員のワークライフバランスなどを考慮しながら、全職員で検討を行い、次年度の土曜日授業の回数を10回程度に設定することができた。				

II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から			
1 教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成 【市共通項目1】	①基本的な生活習慣の確立。学習活動と部活動等を両立させ、高校生活を充実したものとする。【各学年】	B	B 時間を守る等の基本的な生活習慣が確立されていることは、良いことである。また、欠席・遅刻が減少していることも評価できる。3年間を見据えた指導の充実、生徒が下校時間を厳守すること、学習で励まし合う雰囲気や人間関係も大切にしたい。			
		【学校説明】〔1年部〕5分前着席指導により、1日の始まりからの生活習慣作りを目指したが、間に合わない生徒が絶えず10名程度いた。中学校とは異なる学習の質と量に、部活動との両立に苦慮する姿が見られたが、人間的には成長につながっている。	B		【学校説明】〔2年部〕遅刻や欠席が少なく基本的な生活習慣が確立されている生徒が多い。学校生活には前向きに取り組んでいるが、学習と部活動の両立については、部活動のほうが目立っている生徒も多く見られた。		
		【学校説明】〔3年部〕受験期直前までのスケジュールの継続的実施により、各生徒の生活実態を把握し、適宜、適切な指導を行うことができた。					
		②学習習慣の定着や確かな学力の育成を図りながら、自分を律すると同時に他者への配慮を忘れない生活を心がけようとする。【各学年】					
		【学校説明】〔1年部〕多くの場面を使って、学力向上のために家庭学習時間を作り出すことの大切さを説いてきた。家庭学習の定着が不十分な生徒には個別面談を多用し、丁寧にサポートを行えた。しかしながら結果に反映するに至らず今後継続的指導が必要である。生活面ではあつてはならない事象が起り、規範意識や道徳心、倫理観を養うことが課題である。	B		【学校説明】〔2年部〕家庭での学習習慣についてはなかなか定着ができていないが、授業には真面目に取り組んでいる。他者への配慮については、できている生徒が多い。		
					【学校説明】〔3年部〕学年集会での代表生徒スピーチを3年間継続した。代表者のスピーチの内容や態度には非常に感銘を受けたが、それ以上に聴く側の姿勢、態度に大きな進歩を感じた。生徒同士お互いの努力やその成果に耳を傾けることは教員の講話よりもはるかに力強く生徒の生活態度に好影響を与えるものであり、他者の配慮や敬意を持つ機会を生むものであった。		
					③各学年と連携しながら家庭学習時間の実態を調査し、家庭学習習慣の確保と定着を図るため、部活動の終了時間、速やかな下校、適切な課題提示等について、教員全体による共通理解を図る。【教務課】		
		【学校説明】6月・11月に帰宅時間調査を行い、その結果を踏まえ、家庭学習時間確保のため、平日は19時までには部活動を終了し、速やかに生徒を下校させるということについて職員の間で共通認識を持つことができた。	B		①福祉委員会や各部活動を中心に、ボランティア活動等に積極的な参加を促す。【生徒課】		
					【学校説明】福祉委員会では、熊本地震、九州北部豪雨への募金、赤い羽根共同募金、コンタクトレンズの空きキャップ回収などを行った。また募金活動を行う際には被災地の状況や募金の使われ方などを調べ、活動の内容を周知してもらうよう努めた。男子バスケットボール部が、安倍川花火大会の清掃活動に参加した。特別支援学校との交流を実施した。	B	B ボランティア活動は、自主性や責任感等が育ち、思いやり、感謝の心も育つので充実させたい。継続していけば、PRしなくても活動は周知されていく。
					②部活動や学校行事等において、生徒が自ら考え行動でき、仲間と協力しながら達成感を味わえるよう導く。【生徒課】	A	
【学校説明】文化祭では生徒会を中心に企画・運営を行い、全生徒が参加しながらおもてなしの心で行動できた。生徒同士の連携も密にできた。生徒が自ら考えることを今後も促していきたい。教員の指示がなくても行動できるようにしていく必要を感じる。生徒会では、規約の改正ができた。リーダーシップを発揮できる生徒の育成に力を入れていきたい。							
2 生徒指導	(1)一人一人を大切に した指導 【市共通項目4】	①元気な挨拶が率先してできるよう指導する。また全生徒が制服を正しく着こなすよう指導する。正しい言葉遣いを指導する。【生徒課】	B	A 本校の生徒は、街中で見かけても服装や挨拶で爽やかな高校生らしさを感じる。挨拶を指導するには工夫も必要だが、さらに道徳心を高めていきたい。			
		【学校説明】清々しい高校生の態度が、少しずつ定着をしている。TFKSやGAKSの新たな試みは、生徒に意識をさせる効果があったが、浸透させるには地道な指導を継続する必要がある。朝の昇降口登校指導も効果的に実践できた。挨拶ができなくても軽く会釈をするのはできる生徒は一定数いる。部活動を中心とした挨拶活動の実施により、挨拶をする雰囲気を醸成することができた。					
3 進路指導	(1)進路指導の充実	①各学年・各教科・各課との連携を密にし、進路指導における教員間の目線合わせを確実にを行うと共に、進路課が提供するプログラムが生徒にとって有意義なものとなるように工夫し、運営を行う。【進路課】	A	A 進路情報の提供や支援がきめ細かく実施されているのを感じる。学部・学科の分化を丁寧に理解させながら、「地域」に貢献出来る人材を育成したい。			
		【学校説明】学年ごとにそれぞれ培いたい力を明確にし、適切なプログラムを提供することができた。生徒自らが高い志を掲げて「挑戦」し続ける力の育成を図ることができた。	A		②各方面から得た最新の進路・入試情報を保護者会や面談等で提供する。また、模試の結果を本校独自で分析し、本校が抱える問題点・課題を明確にすると共に、生徒の進路実現に向けての戦略立て・提案を行う【進路課】		
		【学校説明】年間3回行われる模試データを活用し、本校生徒が学習面において抱える課題の可視化を行うことで、本校の現状において求められる進路指導を具体化することができた。					
		【学校説明】年間3回行われる模試データを活用し、本校生徒が学習面において抱える課題の可視化を行うことで、本校の現状において求められる進路指導を具体化することができた。					

4 安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築 【市共通項目5】	①PTA育成委員や交通委員と協力しながら、臨地交通指導を充実させ、交通ルールを遵守する意識をしっかりと持たせる。【生徒課】	B	B	街頭指導の結果、危険な地域や箇所について教職員・生徒ともに共通理解を図り、粘り強く伝え、交通事故「ゼロ」を目指したい。
		【学校説明】主にPTA育成委員と協力して交通指導を行い、各箇所での感想等を回収し、生徒の交通マナー向上に寄与した。しかし、日々の交通違反や事故数は減少できていないため、改善が必要である。			
5 保健管理・指導	(1)健康教育の充実 【市共通項目6】	②生徒の安心・安全を最優先に考え、施設・設備等の定期点検及び不具合箇所の早期対応を図り、生徒がより快適な学校生活を送れる環境整備を図る。【事務室】	A	A	生徒の安全を最優先に考え、先を見据えた効率的な予算執行を進めてほしい。トイレの洋式化を進めているとも聞いている。大切な事であると思う。
		【学校説明】本年度予算化された「卓球場屋根改修(漏水対策)」「体育館外壁改修(漏水対策)」を実施するとともに、施設・設備等の不具合箇所について、生徒等の安心・安全を最優先に精査し整備を図った。(生徒昇降口のタイル浮修繕ほか)その他、15件の設備保守業務委託業務による適正な設備等維持管理に務めた。			
6 特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進 【市共通項目7】	①教育相談室と学年、生徒課の連携を強化する。情報連絡会・事例検討会の実施し、有効で安定した継続的な支援体制とする。【保健環境課】	A	A	少子化の影響か、精神的に弱い生徒が増加しているように感じる。きめ細やかな対応が必要である。個別の支援計画を作成する生徒が増えているのだろうか。
		【学校説明】スクールカウンセラーの助言を活かし、個々の生徒の指導・支援の深化が図れた。また、関係諸機関と連携し、困難を抱えた生徒について対応するとともに情報連絡会を持つことで、組織的な指導支援に資することができた。個別の教育支援計画の作成を通じて、保護者とも連携し、支援を必要とする生徒への指導ができた。			
7 組織運営	(1)組織・運営の改善 【市共通項目8】	①学校の組織と運営方法に対して、常に効果と課題を検証するとともに改善を図る。【管理職】	B	B	教育活動は、計画・実行・検証することが大切である。業務改善委員会が示した目標が早期に実現することを期待する。
		【学校説明】学校組織と運営方法を見直すため、運営委員と中堅教員で学校業務改善委員会を立ち上げた。「学校生活の充実」「家庭学習の充実」「業務削減」の3グループがそれぞれに課題を検討し、職員会議へ提案している。今後続けていく。			
8 研修	(1)研修体制の充実 【市共通項目9】	①教職員の自発的な授業改善活動や授業公開活動を支援、授業内で主体的な学習活動を広めていく。【研修課】	A	A	全教職員が同じ方向に向けて研修に取り組んでいることを感じた。AL型授業の評価とさらなる研修の成果が、生徒の学力向上につながることを望む。
		【学校説明】AL型授業が定着してきている。また、授業評価アンケートの活用や他校研修会への参加等、教職員が積極的に授業改善に取り組んだ。			
		②図書委員会の活動を中心として積極的に情報発信をし、読書の意識付けをする。また学習センターとして自学自習の場を提供する。【図書課】	B	B	図書館の活用の状況は、授業改善と相関しているように感じる。探究活動に役立つ書物を増やしていきたい。
		【学校説明】図書委員会の活動として本の紹介冊子を新入生に配布、月ごとに図書館ニュースの発行、ウエルカムボード作成、ピブリオバトルの実施等を行った。学習センターとしても3年生を中心に秋以降に利用者が増えた。また、洋書コーナーを新設した。			
9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進 【市共通項目10】	①開かれた学校づくりを推進するため、ホームページや学校案内、パンフレット、チラシ等を活用しながら、土曜授業(公開)等において、全職員が授業や学校生活、行事、部活動等を積極的にアピールする。【管理職】	A	A	HPや土曜公開授業等が地域の人々や中学校等に向けての広報の充実につながり、開かれた学校づくりを感じる。さらに推進したい。
		【学校説明】学校ホームページでは、日々の生活・部活動等がほぼ毎日更新され、アクセス数が急増した。また7回の土曜授業(公開)では、中学生等に丁寧な説明会と授業を公開し、高い評価を得た。職員の土曜公開への意識が高まり、全校体制で取り組むようになった。			
		②生徒が自己の在り方・生き方を考えると共に、将来自分がこの「地域」においてどのような役割を果たすことができるのかを考える機会を提供する。【生徒課】	A	A	市の議会や市役所等との多様で積極的な交流は、これからも大切だと感じている。市議と生徒との対話は新聞にも掲載され、本校のPRになった。
		【学校説明】静岡市議と生徒の対話を提供した。福祉委員会の活動として、社会福祉協議会と連携することで地域の福祉活動を考える機会を作ることができた。2月には、生徒会を中心に登下校時の危険箇所の情報を生徒から集め、静岡市議会に提出し改善の要望を出す予定である。			
10 施設設備	(1)リサイクルや省エネの推進	①委員会活動や大掃除の機会を通じ、生徒が清掃の意味を理解して自主的・積極的に取り組めるように図る。【保健環境課】	B	B	人間と環境との関わりについて理解させ、学んだことを実行に移して環境に配慮した生活を送らせたい。
		【学校説明】生徒は真面目に毎日の清掃を行っている。生徒の委員会活動を中心にゴミの分別等の呼びかけをすることで、校内美化に対する意識を高めることができた。			
11 科学探究科	(1)科学探究科の特色化と指導の充実	①中間評価において指摘を受けた「評価方法」の改善を引き続き行う。また、昨年度完成させた2種類のルーブリック「実験用ルーブリック」「発表会用ルーブリック」を活用し、各プログラムの内容の充実を図る。【科学探究科】	B	B	ルーブリックは生徒の最終達成度だけでなく、今の行動や伸びを測ることができてよい。また、AL型授業の評価にも役立てられているので、時間と蓄積が必要と感じた。
		【学校説明】まだ十分にルーブリックを活用することができていない。生徒面談の機会を増やす、その記録を残す、発表会での評価を生徒に直接フィードバックするなど、ルーブリックを介した指導法を今後も継続して研究していく。			
		②各教科科目の特性に応じた少人数指導のあり方を研究し、生徒の学力向上につなげる。また情報課、研修課と連携を取りながら、プロジェクターの活用を推進する。【科学探究科】	B	B	少人数指導の成果や評価がわかるようになるとうよい。質の高い授業とは何か、明確なビジョンを提示する必要がある。
		【学校説明】少人数授業を実施しているすべての授業において、少人数の利点を活かした授業が展開されているとはいえない。(教師アンケート79%/21%)3年生からは「発言・質問しやすい、モチベーションが向上した」との評価がある一方で、少人数ならではの授業をもっと期待する声も挙がっている。			
		③課題研究では、実験ノート、ルーブリック評価を活用し、研究内容の深化に向けた取り組みを継続する。また優れた研究に対して、各種研究発表会への参加や科学コンクールへの応募を推奨する。【科学探究科】	A	A	多種多様な発表会に参加することは、大切だと思う。大学や研究機関と連携・協力しながら課題探究をさらに深めたい。
		【学校説明】課題研究の深化に向け、夏季休業中に静岡大学・静岡県立大学と連携した研修を行うことができた。校外での発表会には延べ18名が参加し、コンクール応募件数も増加した。学生科学賞では県科学教育振興委員会賞を受賞した。			
④教育課程の変更や指導体制について研究し、普通科における探究活動を可能にするための方法を検討する。【科学探究科】	A	A	普通科へのプログラム拡大は素晴らしい。今後の試行錯誤が必要である。また、新入試に対応していくことも大切である。		
【学校説明】全校生徒を対象に第2期SSHを実施すること、普通科生徒も探究活動に取り組むことを見据えたカリキュラム・マネジメントを行った。					
学校から 経営のまとめ(成果と課題)				学校関係者評価委員会まとめ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>文武両道を目指して、前向きな姿勢で高校生活に取り組んできた生徒が多く、学校生活に対する満足度が高かった。今後も確かな学力の育成や学力保障の推進のため、アクティブ・ラーニング型授業等、魅力ある授業を積極的に取り入れ、新テスト及び新学習指導要領に対応した取り組みをより一層推進する。</li> <li>学校行事や部活動等に積極的に取り組み、人間性や主体性を高めることができた。ただし、個別の支援を要する生徒もおり、きめ細やかな対応が必要である。</li> <li>HP等、学校情報を積極的に公開することができた。今後更なる確かつ迅速に情報提供をしたい。</li> <li>今後は2期目のSSH指定を受けて、普通科生徒へのプログラムの拡大を推進していく。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫された学校づくりがなされ、生徒との関係も良好と感じた。今後の教育改革は千載一遇の機会ととらえ、先生方の健康に留意しながらの取り組みに期待している。また、価値観が多様化している中で、一般常識も忘れずに生徒に身に付けてもらいたい。</li> </ul>	